

モニターから・編集者から

二十四期広報委員会では、毎号教職員二十名、学生二十名の計四十名の方にモニターをお願いした。そのうち、六号では十九名、七号では十八名の方にご回答を頂いた。ここでは、六、七号のモニター諸氏の意見を併せてご紹介する。

◆表紙のデザイン、色等を含めた本誌の印象について

表紙については、「写真を入れたほうがよい」というご意見を四名の方から頂いた。同様のご意見は毎号頂いており、二十五期では検討される予定である。「地味・単調・どんくさい」という主旨のご意見を五名の方から、「シンプルでよい」という主旨のご意見を十七名の方から頂いた。

◆開かれた学問について

「タイトルの意味が不明である」、「タイトルと内容が不一致」というご意見を五名の方から頂いた。二十四期八号の「モニターから・編集者から」でも説明させて頂いたが、本欄は、旧『学内通信』から『広大フォーラム』に名称変更したときに、「広島大学では

今、何が研究されているかを広く内外に知ってもらおう」ことを目的に設けられたものである。

「興味深い内容である」、「読みごたえがある」、「学内の研究動向が分かりやすい」、「今後も続けてほしい」、「増ページしてほしい」といった肯定的なご意見を二十名ほどの方から頂いた。その他、「著者プロフィール等を紹介してほしい(二名)」、「二編取り上げるなら文・理一編ずつ載せてほしい(二名)」、「テクニカル・チームの解説を付けてほしい(三名)」、「平易に書いてほしい(五名)」といったご意見も頂いた。

◆留学生の眼について

『開かれた学問』とやらんで、『広大フォーラム』の目玉記事の一つである。今回も、「国際化の時代に、外からみた日本・広島大学を知ることができ有意義である」、「毎号必ず読んでいます」、「これからも続けてほしい」といったご意見を二十八名の方から頂いた。同時に「著者名の読み方を付してほしい(二名)」、「対談・対話形式にしては」、「学習環境や生活の問題を提起しているのであれば、それに対するリアクションも掲載すべき」、「留学生の教育事情にもふれていただきたい」、「日本人学生の感想・コメントも聞きたい」というような貴重なご提言も賜わった。

◆今後に期待する記事・内容等について

「理想の大学像、大学の抱えている課題、今後の展望など(二名)」、「西条地区における交通・下宿・福利厚生施設等の現状、問題点(十二名)」、「評議会便りの充実、各学部の教授会便り」、「各学部の施設紹介」、「各学部の研究内容紹介コーナー」、「学外の方のご意見・情報」、「退官後の教職員・卒業生の近況」、「意見・提言・疑問・不満・悩みなどの投稿コーナー(四名)」、「海外の大学のキャンパスライフ」、「エッセイ・雑文」などが、寄せられている。

西条地区における諸問題についてもっと取り上げるべきであるというご意見を多く頂いた。そのことに関して、お一人のモニター氏から真摯なご意見を頂いた。以下全文をそのまま掲載する。「先日偶然にも広大生の死亡事故を目撃したが、交通事故の特集(七号に掲載)はあまりインパクトがないように思える。広大生がどうして車を使用せねばならないのかを、もう一度考えてはどうか。一つには、バスなどの公共交通手段がプアーであると言える。西条という地形の凹凸が激しい場所では、自転車の利用も限られることになる。もう一つは、大学の近くの環境である。近くに一軒の飲み屋もなく、またしやれた店、食堂などもまったく見られない。日曜など学食が休みの時は、

遠くの店まで行かねばならないであろう。条例によって出店に規制があると聞くが、一体何のためなのだろうか。まったくナンセンスである。もう少し学生の街らしくするように大学側も市に働きかけるべきである。」

◆その他気づいた点について

「用紙など高いものを使用しているのではないか。経費節減に努めるべし(四名)」とのご意見を以前から頂いている。意外に思われるかも知れないが、現在使用している光沢のある滑らかな紙は、光沢のないものより安価である。また、「対象読者が不明確である(二名)」とのご指摘も以前から頂いているが、本誌は広島大学の教職員・学生の幅広い読者を対象にしていることをご理解頂きたい。この問題については、二十五期委員会で検討中である。

(文責・堀越)

